月月火水木金金

夜の夜中のまっ暗闇で
うんとふんばるあかがね色の
クソの太さとみなぎる匂い
裏の畑の肥溜め便所
けつけつかいかいノミくった

朝だ四時半だ弁当箱下げて
家を出て行くおやじの姿
昼めしはミミズのうどん
ルンペン生活なかなかつらい
けつけつかいかいノミがいる

歩兵の本領

小林公

柿の大木の枯れしより
月日も為に光なく
下を虎ゆ止をさへ
吹き来る風は腥さし

アムール川の流血や
凍りて恨み絶びけん
二十世紀の東洋は
硝雲空にはびこりつ

メーデー歌

閉止万国の労働者
どどろきめたる メーデーの
示威運動に起る 足どりと
未来を告げる ときの声

ラッパ節

今なる時計は 八時半
あれにおくれりゃ 重営倉
今度の休みが ないじゃなし
はなせ軍刀に 錆がつく
トコトットットット

大臣大将の 胸先に
ピカピカ光るは 何ですえ
金鵄勲章か 違います
可愛い兵士の しゃれこうべ
トコトットットット

名誉名誉と おだてあげ
大切な倅を むざむざと
砲の餌食に 誰がした
もとの倅に して返せ
トコトットットット

子供の玩具じゃ あるまいし
金鵄勲章や 金平糖
胸につるして 得意顔
およし男が さがります
トコトットットット

倒れし戦友 抱き起こし
耳に口あて 名を呼べば
にっこり笑って 目に涙
バンザイとなうのも 口のうち
トコトットットット

世相・政治・権力に対する「消極的」抵抗としての、戯歌・替歌・戯れ言などは、時として、直接的な抵抗文言以上に、浸透することもある。方法としての落書などとともに、「クチコミ」も馬鹿にならない。落書などが、それを目にした人が対象となるのに対して、口誦された替歌は、とりわけ子供を介して、拡散する。

○ それは、かなり多くの人々の心をとらえた。しかし、それは、現実を動かす力にまでは達しなかった。行動に結びつけるためには、そのこと自体を追求する主体が必要だっ たが、激しい弾圧の下で、それは分断されていた。

○ 再び「軍事大国」の道に進もうとする勢力の総攻撃がはじまっている。反動攻勢の基本的な方向は、むき出しの弾圧ではなく、国民の分断を計るところにある。替歌が、ささやかな抵抗の手段となるだけの状況にしてはならない。しかし、新聞紙上などでのコントや川柳の欄にもあるように、権力を「コケ」にする言説は、無駄ではない。第一、 それは楽しく、面白いではないか。

(2023.5.13. 福岡先生の資料より)

(第3種郵便物認可) 中日新聞 2023.5.14

戦時歌謡 動員の道具

日福大名誉教授 福岡さん半田で講演

半田市民らでつくる「半田空襲と戦争を記録する会」による「戦争と平和を考えるつどい」が十三日、半田市の雁宿ホールであり、日本福祉大名誉教授で歴史研究者の福岡猛志さんが戦時歌謡に関する講演をした。約百人が福岡さんの歌唱も交えた話に耳を傾けた。

福岡さんは旧日本軍大本営の幹部が「音楽は軍需品なり」と言うほどに、国民を戦争に動員する道具として戦時歌謡が重視されていたことを指摘した。

市内にあった中島飛行機半田製作所の歌を著名な作詞家の西条八十が作詞し、山田耕筰や古関裕而ら名だたる作曲家たちも制作に携わるなど、戦時歌謡が国民に身近であったことを解説すると、参加者たちは驚いた反応を示していた。

また、新聞社や出版社などメディア各社も競って戦時歌謡を作っていたと説明。朝日新聞による「父よあなたは強かった」は戦地で死んだ父をしのぶ歌で、「勇ましいものばかりでなく、悲しみで国民を戦いにかき立てることもある」と戦時歌謡がさまざまな手法で戦意高揚を図っていたことを示した。(石井豪)

戦時歌謡に関する講演をする福岡さん=半田市雁宿町の雁宿ホールで